

1年A組 音楽科学習指導案

- 1 題材名 いいおとをみつけて あそぼう
- 2 教材 ばすばすはしる みつばちのぼうけん

3 指導観

- 本学級の子ども達は、音楽の時間をとても楽しみにしており、歌を通してのびのびと表現できる子どもが多い。音楽の学習では、1学期、歌を中心に音や音楽に合わせての身体表現、リズムうち等の学習を進めてきた。子ども達はそれらの学習を通して、音楽の楽しさを実感している。また、鍵盤ハーモニカやタンブリン等の楽器を演奏することや身近なものを活用したリズムうちを通して身の回りの音に対する興味が出てきている。

身の回りの音に対して興味が出てきている子どもにとって、これまで何気なく聞いていたいろいろな音の響きを、様々な音遊びを楽しみながらより身近なものとして経験することは意義深いものであると考える。その中で、音そのもののおもしろさに気付く、音の響きによって表される様々な気持ちや情景などを想像できるようにすることは、子ども達の音や音楽に対する関心をさらに高めることにつながると考える。

- 本題材は、自然の音や生活の中の音、動物の鳴き声や人の声、身の回りのいろいろな音の響きに注目したり、自分の表現したいことについてイメージを広げながら、声や楽器、擬声語や擬態語、様々な音の素材を使って、音を探して表現する活動を行うことにする。その中で、楽器や身近な道具を活用しながら、様々な音とのかかわりを深めるような活動を行いたい。

本単元で中心になる教材「ばすばすはしる」は、バスに乗って、車窓から眺める景色を歌った歌詞で、臨場感にあふれている。分散和音をモチーフにした跳躍のある旋律や軽快なテンポなどがあいまって、遠足などで解放された子どもの楽しい気分をよく伝えている。そのため、子ども達が、バスで森や草原、海辺に出かけ、そこでの出会う様々な出来事をイメージしやすいと考える。

また、「みつばちのぼうけん」は、既習曲「ぶんぶんぶん」を器楽演奏に編曲した変奏曲形式の作品である。4回繰り返される旋律は、「ぼうけん」という曲名が示すように、各回ごとに表情を変え、みつばちが出会う様々な場面を思い起こすことができる。最初にテーマを演奏する鍵盤ハーモニカをはじめ、いろいろな楽器の音が表情豊かに重なり合っており、音色という視点からも変化に富んだ編曲となっている。そのため、音色に気をつけて、みつばちのぼうけんの様子を想像力豊かに聞き取っていくのに最適な題材であると考えられる。

- 本題材の指導にあたっては、歌詞の表す情景を想像することを通して、即興的に音を探して表現し、楽しみながら音に親しむことができるようにしたいと考える。

そこで、歌詞の表す情景をイメージしやすくするために、歌詞をもとに「バスの冒険」物語を作っていくことにする。小学校の校庭を出発した1年3組を乗せたバスは、「みどりのとんねるぬけて」（1番の歌詞）森へ到着する。そこで、様々な動物との

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 番（海）での情景を思い浮かべ、音遊びを行う。 ○ 身近な楽器を使い、音遊びを行う。 ・ 音楽室にある楽器を使い音遊びを行う。 ・ 身近なもので楽器を作って音遊びを行う。
第 2 次	3 時 間	○ みつばちのぼうけん	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鑑賞曲「みつばちのぼうけん」を聴き、いろいろな楽器の音色の違いに気付いたり、それぞれの音の美しさを味わう。 ○ タンタンウンのリズムで好きな旋律をつくって演奏したり、リレー遊びをしたりする。

6 本時

10月25日（火） 5校時 於 第2音楽室

7 本時の目標

- 複数の情報の中から自分のイメージにあったものを選択し、即興的に音を探して、表現することができる。

8 本時指導の考え方

本時の指導にあたっては、「ばすばすはしる」の歌詞から情景を思い浮かべることを通して、即興的に音を探して表現することをねらいとする。

子ども達は、歌うことが大好きで、歌詞の表す情景や場面を想像して楽しんだり登場する人物になりきって歌ったりする。本時では、「バスで冒険の旅に出発！」合図とともにバスが出発し、子ども達を歌の世界へと誘っていく。

出発の合図とともに、「ばすばすはしる」の歌詞と情景をプロジェクターを活用し、前面のスクリーンに映し出すことにする。情景を見ながら歌うことで、子ども達はさらに歌詞の世界に浸りながら歌うことができると考える。そして、前時の学習を振り返り、森の情景を表現することを通して本時のめあて「もりからきこえるおとをみつけよう」をつかませるようにする。

次に、前時で話し合った森の情景について想起させ、そこから聞こえてくる音についてイメージし音遊びを行うことにする。しかし、森から聞こえてくる音を具体的にイメージすることは、低学年の子ども達にとっては、容易なことではないと考える。そこで、音に対する子ども達のイメージをより明確に持たせるために、生活経験を振り返らせたり動作化を通して音を想像させたりするだけでなく、森から聞こえる小鳥の声・虫の鳴き声・風の音・小川のせせらぎなどをデータベース化したものを提示することにする。子ども達は、森から聞こえる音についての情報を収集し、それらを取捨選択する中で自分の表現したい音についてのイメージをふくらませていくと考える。

子ども達は、森から聞こえてくる音のイメージをふくらませ、表現したいものが明確になったことで、楽器や身近な道具を活用しながらより意欲的に表現する活動を行うと考える。子ども達が即興的に音を探し表現する際には、一つの楽器から何種類もの音が出せること、身の回りのいろいろなものを楽器とすることができること、同じイメージでも様々

な楽器で表現することができること等について助言を行うことにする。そのことにより、子ども達が音遊びをする際、楽器の演奏の仕方やたたくもの・場所について意識することができ、音遊びの楽しさを体感できると考える。

最後に、本時で学習した音遊びの楽しさを振り返りながら、2 番の歌詞「かわいいこうしがみえてくる」に目を向けさせ、どんな音が聞こえてくるか話し合い、次時の学習への意欲を持たせる。

9 展 開

学習内容と予想される子どもの姿	支援	I T活用
<p>1, 本時のめあてを確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を振り返りながら、「ばすばすはしる」を歌う <p>本時のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <p>もりからきこえるおとをみつけよう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習につくった物語「ばすばすはしる」を想起させながら歌をうたわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞と挿絵をプロジェクターで映し出し、子ども達を情景に浸らせる。
<p>2, 森に到着したバスの窓から見える情景を思い浮かべ、音を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 想像した情景をもとに聞こえてくる音について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活経験を振り返ったり動作化をしたりするとともに、音のデータベース等も活用し、森から聞こえてくる音について考える。 ○ 情景から聞こえてくる音を楽器などを使って表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の音の中から、表現したい音を決め、楽器などで表現する。 ・ 楽器を選択し、たたき方やバチの種類などを工夫して表現する。 <p>3, 見つけた音を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんな音を見つけたか楽器などを使って表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 森から聞こえる音について、生活経験データベース・動作化など複数の情報から考えさせることで、表現したい音についてのイメージを明確に持たせる ○ 表現したい音の種類によってグループを作り、活動を行う。 ○ 一つの楽器や音の素材から何種類もの音が出せることに気付かせるように助言を行う。 ○ 見つけた音を、何のどんな音なのか発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ データベース化した音や生活経験から想像した音・動作化により表現した音など複数の情報から音を選択させることで、子ども達が表現したい音を明確にする。

4, 次時の学習について, 知る。

- 2 番の歌詞を見て, どんな音が聞こえて来るか想像する。

○ 同じ楽器でも、たたく物やたたき方、たたく場所によって音の聞こえ方が違うことに気づくように助言をする。

○ 2 番の歌詞を見せ、音を想像させることで、次時への意欲を持たせる。

○ プロジェクターで 2 番の歌詞の情景を見せることで、イメージをふくらませる。

10 参考

- プロジェクターで映し出す歌詞



- 本時で活用するデータベースの画面



- ・ 低学年の子ども達がいやすいようにイラストのボタンを情景に貼り付けている。ボタンを押すと、鳥のさえずりなど森から聞こえてくる音になる。

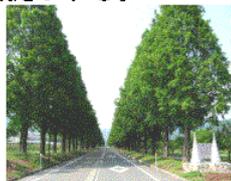
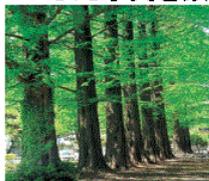
- 子ども達が歌詞の情景を広げるための手だて（情報の選択場面を通して）

情景のイメージを広げるために

歌詞との出会いの場において

- ・短い歌詞から明確なイメージを持つことはむずかしい
- ・情景に対するイメージは各自ちがう

情景(みどりのとんねる・かわいいこうしがみえてくる・おふねのますとがゆれている)を表した写真を数種類提示する。



複数の情景から自分のイメージに合うものを選択する

歌詞に対する情景を各自が自分のイメージとして明確にする

音遊びの場において

聞こえてくる音のイメージを広げるために

生活
経験

デー
タ
ベース

動作
化

情報のそれぞれの特性を活かし、情報の収集を行う。

音データベース～具体的な音を聞く事ができるが、イメージが固定しやすい
生活経験～各自が持っているイメージを自由に表現できるが、具体性に欠ける
動作化～羽ばたきや飛ぶ姿など具体的に表現できるが、具体性に欠ける

自分にあつた情報を選択することで、それぞれのイメージを広げ、明確にすることができる。

表現活動を活発化し、「イメージした音」を表現できたという達成感を得ることができる